

だから職員が辞めていく ダメな施設を選ばないために 12

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-09-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 耕一郎, 岡田, 浩子 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/224

だから職員が辞めていく

ダメな施設を選ばないために



12

利用者を前にして介護サービスを提供しているのは一人ひとりの介護職員である。そして、彼らを管理しているのは介護管理職である。そして、彼らもまた、業務改善に取り組みようとするのとき、大きな影響を及ぼしていると言ったこと。

「管理職の能力」といってひとりで難しいことのように聞こえるが、要は有能か、無能かである。たとえば次のような点を見るとよい。

(1) 現場に任せきりにしてはいないか。よく見かけるのは、勤務表を管理職が作らないで、現場の職員に作らせて、自分は現場の自主性を尊重しているという姿勢を示すやり方である。勤務表を作ることは、現場の職員を管理することの第一歩であり、管理を放棄した管理職は管理職の肩書きを持つ必要はない。

(2) まともな判断力があるか。何が正しくて、何が間違っているのか判断できない管理職は少なくない。たとえば見るもの、聞くもの、外界からの情報を何でもそうだと感じてしまうタイプで、研修に行っても講師のほとんどない情報を受託して施設で実践しようとする管理職は一定

岡田耕一郎(おかだ・こういちろう) 経営大学経済学部教授。日本経済大学博士。著書『老い生き』を出版。

岡田浩子(おかだ・ひろこ) 福祉士。著書『老い生き』を出版。

い。しかし、しばしば目にするのは、午前中の会議で言ったことと、夕方になって現場に指示していることが正反対という管理職である。これでは、職員は管理職に寄り添う気持ちにはなれない。職員(フォロア)がより添えない管理職は少なくともリーダーではなっていない。

(4) 理由をきちんと説明できるか。介護には必ず理由がある。なぜ、その利用者に対してそのような介護を提供するのか、そのよ

現場を崩壊させる要因

うな手順で行うのか。そう

殺しにはしない。

考えてみると、実は、介護は理屈の上に乗っかってい

(6) 難しい決定を後回しにしているか。無能な管理職は簡単な意思決定に

までする。簡単な意思決定を両手に抱え、忙

しい、忙しいと言いが、その忙しさが部下に見

えるようにアピールすることも忘れないで、さも仕事ができるような演出をする。しかし、管理職が責任を持って本当に取り組まなければならぬのは難しい

意思決定の方であるが、それには何も取り組まないで、難しい問題ほとんど先送りされてしまう。い

き、相談に乗るだけで、け

いことを正直に分らない

る。典型的な無能な管理職

だ。これは非常に重要な点であるが、われわれは無能な管理職を責めているわけではない。無能な管理職であっても何とかまわせるような介護現場を作れば、管

理職自身も心の平安を保つことができる。しかも部下も仕事が簡単にできるので精神的に楽だ。それにもかかわらず、自分の能力では対応できないような難しい介護の方法(典型的にはユニットケア)にするから現場がこんがらがってしまうのだ。スウェーデンの介護の本質は、実はユニットケアの顔をしたフロア制なのだが、気づいているのだろうか。さて、管理職の能力は外から見えてくいのので、判断しづらいかもしれない。そんな時には、管理職に向か